



学校だより



10月号

令和7年9月30日
江戸川区立瑞江小学校

7歳までは神のうち

副校長 小出 紀幸

夏休みが終わったにもかかわらず、9月は中旬まで猛暑が続きました。下旬になってようやく秋を感じられるようになりました。ここ数年、毎年「過去最高の暑い夏」と言われていますが、来年や再来年も過去最高と言われそうな気がします。

秋の行事の1つに「七五三」があります。平安時代の風習をもとに3歳、5歳、7歳の年に子どもの成長をお祝いします。11月15日がお祝いの基準日ですが、近年は10月から11月の週末などにお祝いが行われています。3回のお祝いは、もともとは以下のような儀式でした。

【3歳 髪置き】 3歳までは頭髪を剃る習慣があり、それを終える儀式

【5歳 袴着】 男子が初めて正装である袴を身に付ける儀式

【7歳 帯解き】 女子が付け紐のある着物の着用を終え、大人と同じ幅の広い帯を結び始める儀式

「7歳までは神のうち」という言葉があります。現代のような医療や公衆衛生の体制が整い始めたのは、つい100年前くらいです。それまでは、病気や怪我の時は自然治癒を待つしかありませんでした。薬やワクチンなどもなく、栄養も十分とは言い難かったでしょう。乳幼児の死亡率はかなり高かったと言われています。3歳まで、5歳まで、そして7歳まで生きられたということは、決して当たり前のことではなく、ありがたいことだったと思います。そのような世の中においては、子どもは7歳まではまだ「神様の子」であり、7歳未満で亡くなった子は「預かっていた子が神様のもとへ帰り、そこで暮らす」と解釈され、悲しみを和らげたそうです。

一方で7歳を超えると、子どもは「人の子」としてこの世で生きていくこととされました。地域社会の一員として認められ、この時に「氏子入り」となる地域もありました。7歳まではわがままや非礼な振る舞いも「神様の子」として寛容に受け止められていたようですが、7歳からはしっかり咎められるようになりました。

7歳が子どもの成長にとってターニングポイントだという認識は、数多の先人が何百年と積み重ねてきた子育ての経験に基づく成果や反省の賜物でしょう。小学校教育も7歳になる年から始まります。7歳まで生きることができたことに感謝し、これからさらに成長を続けることができる喜びを忘れず、人間社会の一員として着実にルールやマナーを習得していくべきことを、瑞江小学校のあらゆる教育活動を通して子どもたちに伝えていきたいです。